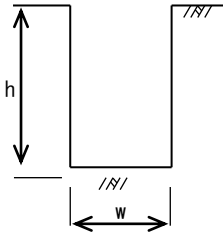

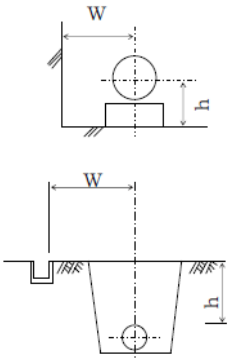

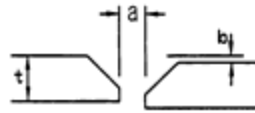
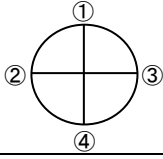
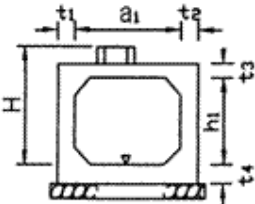


表 2 - 2 出来形管理基準及び規格値 【管布設工事編】

項番	工種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所
1	掘削工	深さ h	±50mm	施工延長 40m 以内に 1 箇所以上及び土工断面が変化する箇所ごとに 1 箇所を測定する。	
		幅 w	±30mm		
		※この規格値は標準掘削断面での規格値を示したものであり、地下埋設物により特殊断面となる箇所や既設管との連絡箇所等はこの限りではない。			
2	埋戻工	一層毎の締め上げ厚さ	30cm 以内 路床部は 20cm 以内	施工延長 40m 以内に 1 箇所以上及び舗装種別ごとに 1 箇所を測定する。	
3	管据付工	基準高さ h	±30mm	(1) 曲管部全箇所及び施工延長 40m 以内に 1 箇所を測定する。 (2) 浅層埋設時の土被りはプラスの規格値のみを適用する。 (3) 共同溝等への管据付けについては、別途規格値を考慮すること。	
		中心線の偏位 w	±30mm		
4	管継手工 ( 鋳鉄管 )	管中心線のずれ	±50mm	(1) 全箇所を測定する。内管挿入工及び推進工等もこれに準じる。 (2) 詳細は、(社)日本ダクタイル鉄管協会発行の接合要領書に基づくこと。	
		胴付間隔 a	別表 - 1 参照		
		締付トルク	+10% -0%		
		水圧試験	0.40MPa 以上	(1) 呼び径 800/900mm 以上の継手。 (2) 直部において 10 箇所に 1 箇所の割合で測定する。 (3) 水圧 0.50MPa を負荷し、5 分経過後に 0.40MPa 以上を保持する。	「鋳鉄管継手部水圧試験記録」を提出する。
	0.75MPa	(1) 不断水式仕切弁の取付け箇所。 (2) 水圧 0.75MPa で 5 分間保持する。			
	1.00MPa 以上	(1) 割 T 字管及び不断水式仕切弁 (特殊割継輪) の取付け箇所。 (2) 水圧 1.00MPa で 5 分間保持する。ただし、最高水圧は 1.25MPa まで。			
5	管継手工 ( 鋼 管 )	ルート間隔 a	0 ~ 4mm		
		段差 b	0.25 t ( ≤ 3mm )		

項番	工種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所
6	管推進工	基準高さ	±50mm	(1) 推進中は推進管 1 本ごとに測定する。 (2) 推進完了後の出来形は推進管 1 本ごとに測定する。	推進管の上・下流端
		中心線の偏位	±50mm		推進管の上・下流端
7	シールド工 (一次覆工)	基準高さ	±50mm	(1) 推進中はセグメント 1 リングごとに測定する。 (2) 推進完了後の出来形はセグメント 1 リングごとに測定する。	セグメントの中央
		中心線の偏位	±50mm		セグメントの中央
		真円度	セグメント内径の 1/100以内		セグメントの中央で上下・左右の 2 方向
8	シールド工 (二次覆工)	基準高さ	±30mm	コンクリート 1 打設ごと(両端及び中央部)に測定する。	スチールフォームの前後
		中心線の偏位	±30mm		スチールフォームの中央で上下・左右の 2 方向
		真円度	±30mm		スチールフォームの端部(妻部)で上下左右の 4 箇所
		覆工厚	-20mm		
9	弁・栓類室築造工 (ブロック式)	ブロックの据付け状態	良好なこと	全数について確認。	
		制水弁中心と鉄蓋中心との据付け誤差	ずれのないこと		
		鉄蓋の据付け状態	段差等のないこと		
10	弁・栓類室築造工 (場所打コンクリート)	基準高 $\nabla$	±30mm	全数について測定。 基準高は弁・栓室中央付近で 1 箇所測定する。	
		厚さ $t_1 \sim t_4$	-20mm		
		内法幅 $a_1$	-30mm		
		内法高 $h_1$	-30mm		
		高さ H	±20mm		

別表－１ 胴 付 間 隔

(単位：mm)

呼び径	最大胴付間隔	標 準 胴 付 間 隔				
	K形	S形	SⅡ形	NS形	US形	GX形
75	20	—	45	45	—	45
100	〃	—	〃	〃	—	〃
150	〃	—	60	60	—	60
200	〃	—	〃	〃	—	〃
250	〃	—	〃	〃	—	〃
300	32	—	75	69	—	<u>＝72</u>
350	〃	—	〃	70	—	<u>＝74</u>
400	〃	—	〃	71	—	<u>＝75</u>
450	〃	—	〃	73	—	—
500	〃	75	—	75	—	—
600	〃	〃	—	75	—	—
700	〃	〃	—	75	137	—
800	〃	〃	—	75	〃	—
900	〃	〃	—	75	〃	—
1,000	36	80	—	80	138	—
1,100	〃	〃	—	—	〃	—
1,200	〃	〃	—	—	〃	—
1,350	〃	〃	—	—	141	—
1,500	〃	〃	—	—	145	—
1,600	43	75	—	—	148	—
1,650	45	〃	—	—	〃	—
1,800	48	〃	—	—	〃	—
2,000	53	80	—	—	151	—
2,100	55	〃	—	—	153	—
2,200	58	〃	—	—	155	—

(注1) K形の規格値については、最小3mmとし、最大は本表とする。

(注2) SⅡ形、S形及びNS形継手の胴付間隔の許容量は、±5mmとする。

(注3) SⅡ形、S形及びNS形継手の胴付間隔を現地の状況に応じて監督員と協議して決める場合には、上表によらなくてよい。

(注4) SⅡ形、S形及びNS形継手の固定部及び異形管継手は除く。